

調査の概要

- 調査の目的
 - 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年(4月24日に調査を実施した学校・児童生徒数 大阪府:1,013校 77,527人) 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年(同 大阪府:470校 72,922人)
- 調査の内容 ①教科に関する調査・主として「知識」に関する問題[国語A、算数・数学A]・主として「活用」に関する問題[国語B、算数・数学B] ②質問紙調査・児童生徒に対する調査(平成25年度調査は、きめ細かい把握・分析ができるよう複数冊子化(3冊子を作成)して実施)・学校に対する調査
- 調査の方式 悉皆調査

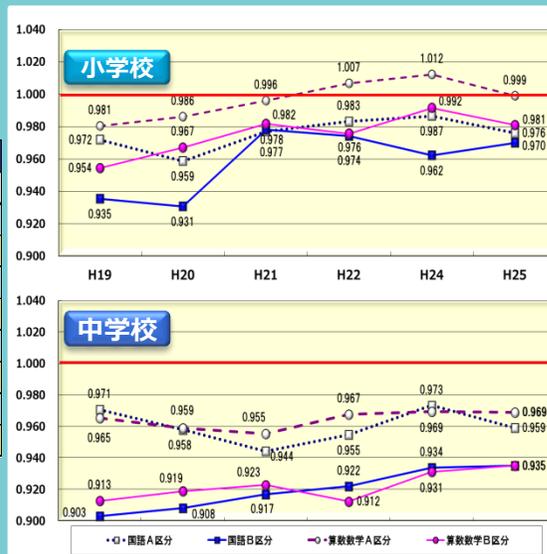
調査及び結果の特徴

- ◆教科の調査結果から指導の充実が求められる課題について
 - 【小学校国語】過去の調査との関連より、複数の内容を含む文や文章を分析的に捉えたり関連付けたりしながら、自分の考えを書くことに課題【小学校算数】問題の解決に必要な情報を選択することや、場面の状況や操作の意味に基づいて、式的確に読むことについて課題【中学校国語】具体的な言語活動の中で、基礎的・基本的な知識・技能を適切に使うことに課題【中学校数学】数量の関係や事柄の意味理解とともに、事柄の特徴を数学的に説明することに課題
- ◆過去の調査との同一問題の正答率の比較について
 - 小学校調査においては、過去の調査との同一問題11問(漢字、接続詞、四則計算)のうち、過去の正答率と比べて4問は今回の方が高く、6問は大きな差がなく、1問は低くなっている。中学校調査においては、過去の調査との同一問題7問(漢字、語句選択、文字式)のうち、過去の正答率と比べて3問は今回の方が高く、4問は大きな差がなくなっている。※過去の調査とは、教育課程実施状況調査、特定の課題に関する調査、全国学力・学習状況調査及びTIMSS(国際数学・理科教育動向調査)等である。

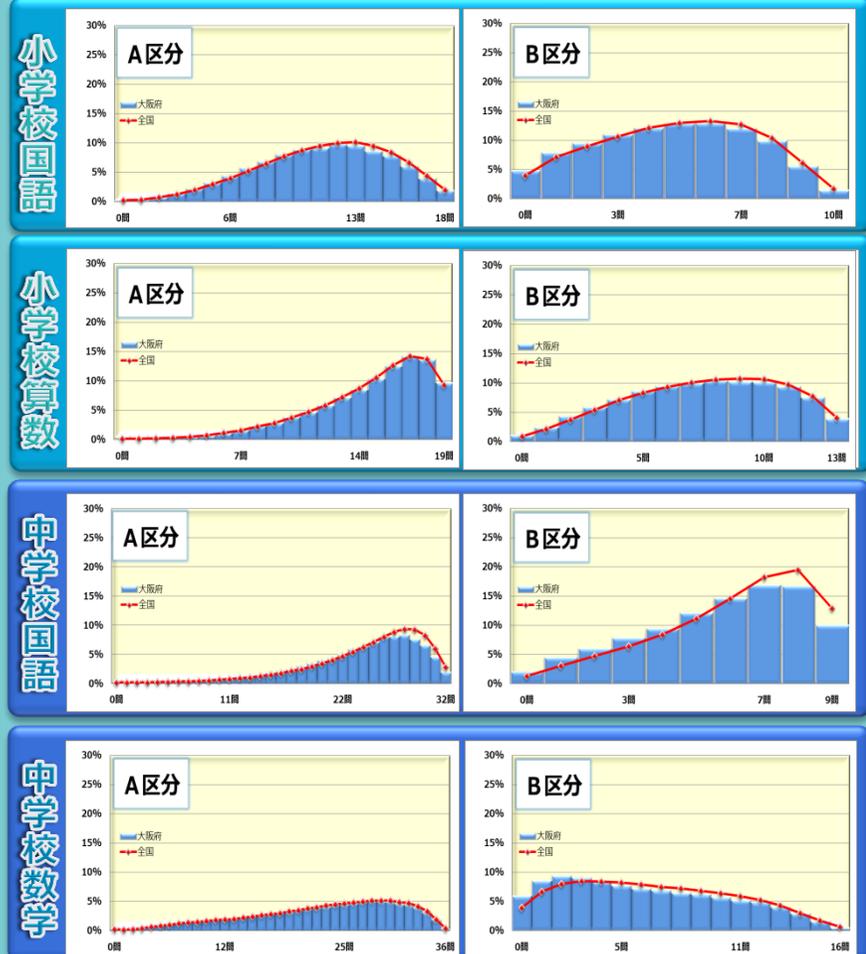
校種・教科・区分別正答率/対全国比経年比較 (下表) (右グラフ)

	H19		H20		H21		H22		H24		H25		
	大阪府	全国	大阪府	全国	大阪府	全国	大阪府	全国	大阪府	全国	大阪府	全国	
小国	A区分	79.4	81.7	62.7	65.4	68.3	69.9	81.9	83.3	80.5	81.6	61.2	62.7
	B区分	58.0	62.0	47.0	50.5	49.4	50.5	75.8	77.8	53.5	55.6	47.9	49.4
小算	A区分	80.5	82.1	71.2	72.2	78.4	78.7	74.7	74.2	74.2	73.3	77.1	77.2
	B区分	60.7	63.6	49.9	51.6	53.8	54.8	48.1	49.3	58.4	58.9	57.3	58.4
中国	A区分	79.2	81.6	70.5	73.6	72.7	77.0	71.7	75.1	73.1	75.1	73.3	76.4
	B区分	65.0	72.0	55.2	60.8	68.3	74.5	60.2	65.3	59.1	63.3	63.0	67.4
中数	A区分	69.4	71.9	60.5	63.1	59.9	62.7	62.5	64.6	60.2	62.1	61.7	63.7
	B区分	55.3	60.6	45.2	49.2	52.5	56.9	39.5	43.3	45.9	49.3	38.8	41.5

※対全国比経年比較の数値は、「大阪府平均正答率÷全国平均正答率」で算出し、その結果について6年間の推移を見たもの
 ※調査はH19, 20, 21, 25が悉皆, H22, 24が抽出



正答数分布 (横軸: 正答数・縦軸: 割合)



校種・教科・区分別無解答率/対全国差経年比較 (下表) (右グラフ)

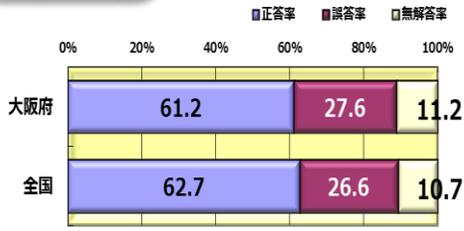
	大阪府					全国					※大阪府-全国10値								
	H19	H20	H21	H22	H25	H19	H20	H21	H22	H25	H19	H20	H21	H22	H24	H25			
小国	A区分	2.7	12.5	10.2	2.8	3.4	11.2	2.0	10.9	9.9	2.6	3.0	10.7	0.7	1.6	0.3	0.2	0.4	0.5
	B区分	11.6	14.3	12.9	5.0	7.3	14.4	8.7	12.3	12.1	4.2	6.6	13.6	2.9	2.0	0.8	0.8	0.7	0.8
小算	A区分	1.5	3.2	2.2	2.6	2.2	1.7	1.1	3.0	2.1	2.4	2.3	1.7	0.4	0.2	0.1	0.2	-0.1	0.0
	B区分	7.4	7.1	6.9	7.0	4.7	6.4	5.9	6.0	6.2	6.2	4.6	6.3	1.5	1.1	0.7	0.8	0.1	0.1
中国	A区分	4.6	5.2	4.8	3.8	4.5	3.2	3.5	3.8	3.3	2.7	3.5	2.4	1.1	1.4	1.5	1.1	1.0	0.8
	B区分	8.5	12.9	9.0	9.8	7.3	4.3	5.2	8.7	5.6	6.8	4.8	2.8	3.3	4.2	3.4	3.0	2.5	1.5
中数	A区分	6.0	8.7	6.9	8.0	3.6	6.5	4.1	6.6	5.1	6.3	2.7	5.3	1.9	2.1	1.8	1.7	0.9	1.2
	B区分	19.5	17.4	13.0	24.8	16.1	20.4	14.4	13.4	9.7	19.3	13.1	16.7	5.1	4.0	3.3	5.5	3.0	3.7

※「大阪府平均無解答率 - 全国平均無解答率」の結果について6年間の推移を見たもの



平均正答率は61.2%であり全国ともに平均正答率は過去最低となった。全体的な状況は、下の学年で習得しておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に不十分なものがあり、指導の充実が求められる。

正答率比較

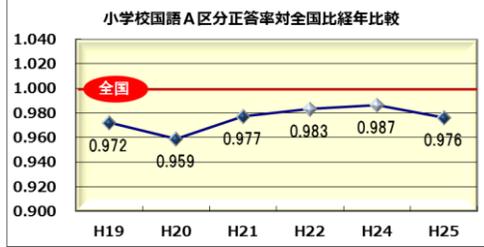


平均正答率は全国を1.5ポイント下回った

◆全国の平均正答率が62.7%であるのに対し、大阪府の平均正答率は61.2%であり、1.5ポイント全国を下回った。

対全国比は前回の悉皆調査とほぼ同じである

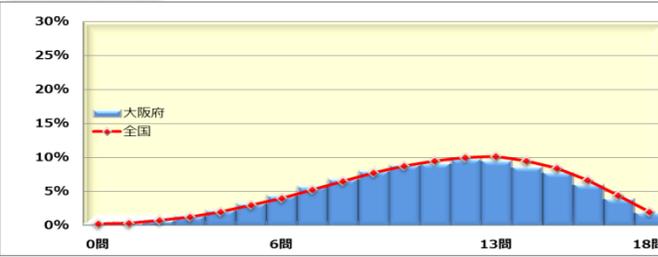
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は4年ぶりの悉皆調査であり、その正答率対全国比は、前回の悉皆調査(平成21年度)とほぼ同じである。



具体的な課題

- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと(「だから」を使って、1文を2文に分けて書く)
- スピーチの表現を工夫すること(選手宣誓をする際の表現の工夫や効果に関し、その説明として適切なものを選択する)
- 目的に応じて資料を読み、分かったことを的確に書くこと(「言葉の使い方」に関する資料を読み、資料の言葉を使って全体から分かることを記述する)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも13問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~10問の間では、全国よりも分布の割合が高く、11~17問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.162、中位層は1.031、高位層は0.932となり、全国に比べ中位層から低位層に向かうにしたがって、その割合が高くなる。
- ◆6年間の変化を見ると、この2~3年で低位層、中位層は減少傾向であり、高位層は一定レベルで推移している。



無解答率比較

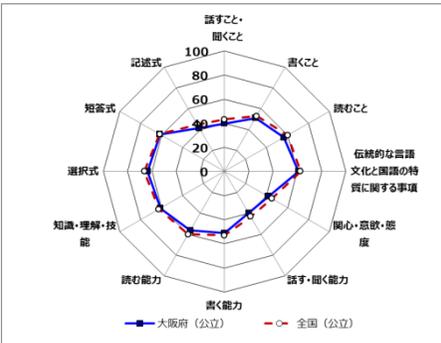


無解答率は全国の状況を0.5ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成22年度は0.2ポイントから、今年度の0.5ポイントまで、わずかながらここ3年間で全国との差は広がっている。

領域・観点・問題形式別

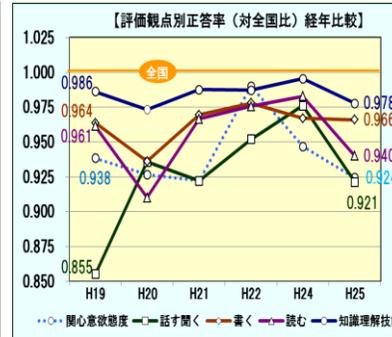
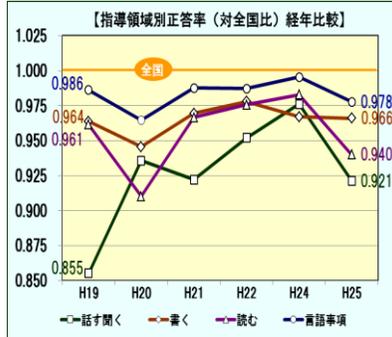
平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

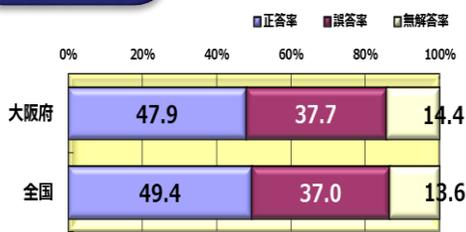
◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「関心・意欲・態度」「記述式」が低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合で比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19, 20, 21, 25は悉皆調査, H22, 24は抽出調査)

平均正答率は47.9%であり、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることに課題が見られる。

正答率比較

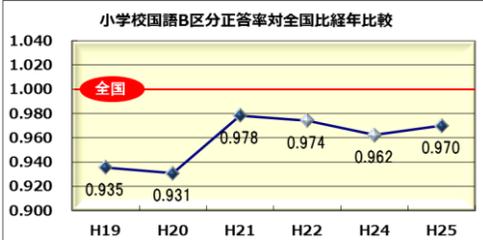


平均正答率は全国を1.5ポイント下回った

◆ 全国の平均正答率が49.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は47.9%であり、1.5ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

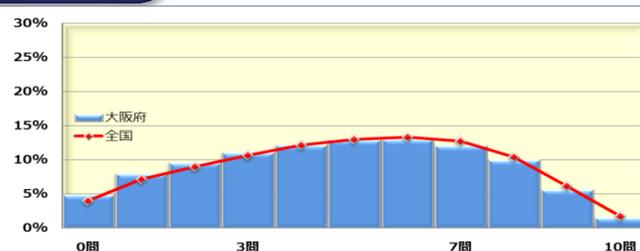
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.970となり、前回の0.962を上回った。



具体的な課題

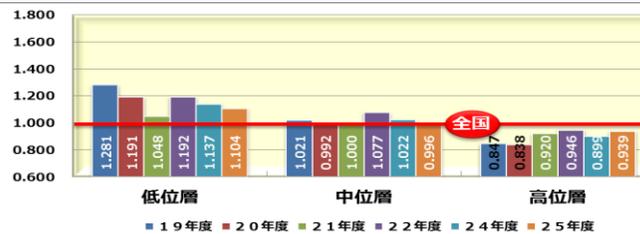
- 目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書くこと(資料の言葉を引用して書くために【ずかんの一部】から必要な部分を探す)
- 目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けながら自分の考えを具体的に書くこと(複数の資料の内容を取り上げ、自分の考えたことを書き出しの文に続けてまとめる)
- 2人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由を捉えること(本や文章の読み方の違いを捉え、推薦している理由を本文の言葉を使って書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも6問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0~3問の間では、全国よりも分布の割合が高く、5~10問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.104、中位層は0.996、高位層は0.939となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
- ◆ 6年間の変化を見ると、ここ3年間においては、低位層の割合が減少傾向にある。



無解答率比較

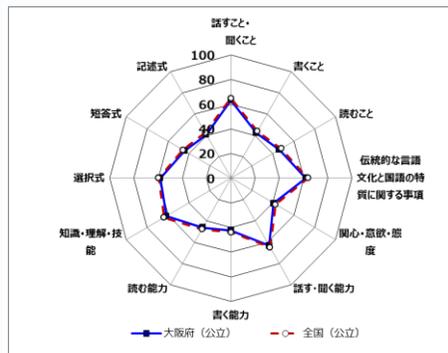


無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は2.9ポイント、平成20年度は2.0ポイント上回っていたのに対し、平成21年度からの4年は、0.7ポイント~0.8ポイントの差にとどまっている。

領域・観点・問題形式別

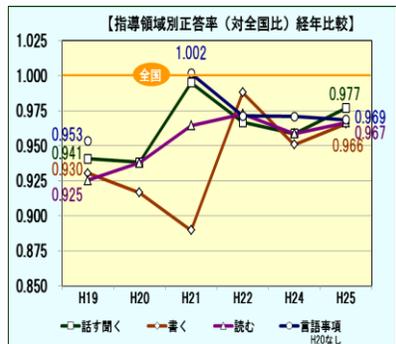
平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

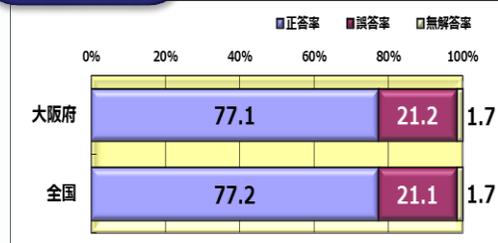
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「知識・理解・技能」などが高い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は77.1%であり、場面の状況や操作の意味に基づいて式を的確に読むことなど、式や計算の結果の意味を確実に理解できるようにする指導を充実させる必要がある

正答率比較



平均正答率は全国を0.1ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が77.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は77.1%であり、0.1ポイント全国を下回った。

対全国比は前回の悉皆調査とほぼ同じである

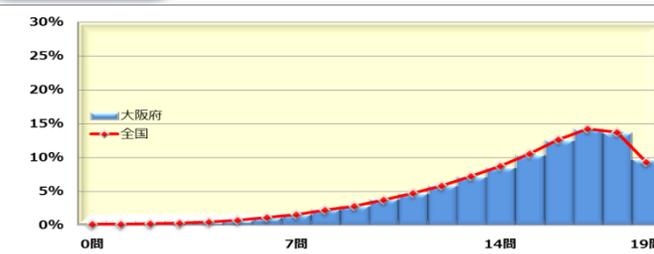
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。6年間の推移を見てみると平成19年度から値は一貫して増加しており、前2回は全国平均を上回ったものの、今年度は初めて前年度を下回った。



具体的な課題

- 式を的確に読み、単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解すること(AとBの2つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ) oe
- 合同な三角形をかくために必要な条件を理解すること(三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶ)
- 四捨五入で数を適切に処理する方法について理解すること(一万の位までの概数にしたときに、20000になる数を選ぶ)
- 円柱について、展開図に示された側面の辺の長さを求めるために、必要な情報を見取図から読み取ること(展開図に示された側面の長方形の横の辺の長さを求める式と答えを書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも17問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府の正答数分布の割合は、全国とほぼ同じ傾向である。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は0.999、中位層は1.010、高位層は0.996となり、全国に比べ中位層の割合が高い。
- ◆ 6年間の変化を見ると、高位層の割合は、ほぼ全国レベルで推移している。

無解答率比較



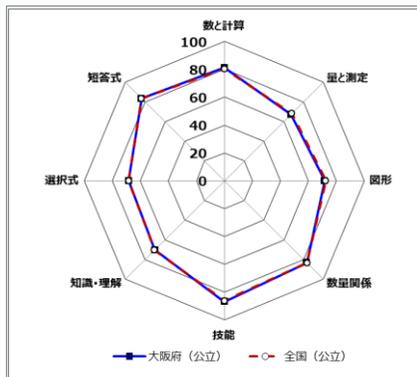
無解答率は全国との差がなかった

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度から減少傾向にあり、昨年度0.1ポイント全国を下回る結果になった。今年度、大阪府の無解答率は全国との差がなかった。



領域・観点・問題形式別

平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

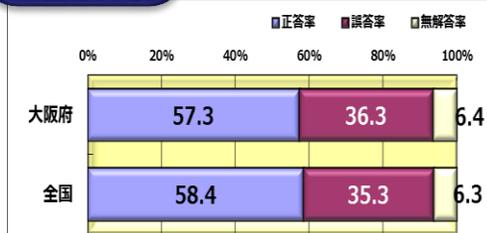
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数量関係」「数と計算」「短答式」で高い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は57.3%であり、問題の解決に必要な情報を選択して記述したり、判断した理由を記述したりすることに課題が見られる

正答率比較

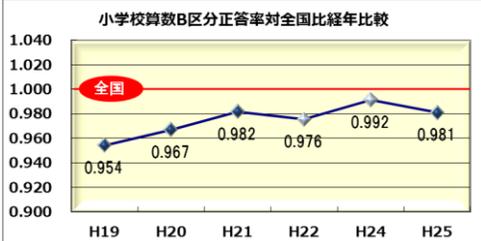


平均正答率は全国を1.1ポイント下回った

◆ 全国の平均正答率が58.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は57.3%であり、1.1ポイント全国を下回った。

対全国比は前回の悉皆調査とほぼ同じである

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。この6年間で平均正答率は全国の状況に近づきつつある。



具体的な課題

- 表から数値を適切に取り出して、二つの数量の関係が比例の関係ではないことを記述すること(ふりこの長さ10往復する時間が比例の関係になっていないことを表の数値を基に書く)
- 示された分け方で二つの三角形の面積が等しくなることを記述すること(示された分け方が元の長方形を4等分していることの説明として、二つの三角形の面積が等しいことを書く)
- 割合が同じで基準量が増えている時の比較量の大小を判断し、その判断の理由を記述すること(帯グラフに示された割合と基準量の変化を読み取り、インターネットの貸出冊数の増減を判断し、そのわけを書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆ 全国、大阪府とも8問から9問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0~6問の間では、全国よりも分布の割合が高く、7~13問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

無解答率比較



無解答率の全国との差は0.1ポイントに縮まった

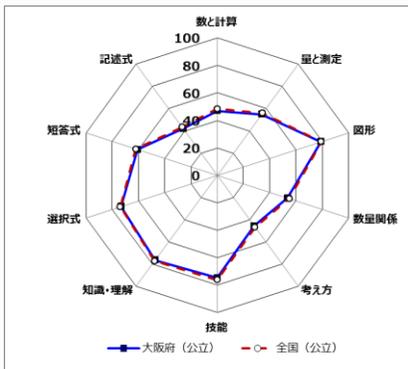
◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、全国を上回った値は平成19年度は1.5ポイント、平成20年度は1.1ポイントあったものが、今年度は0.1ポイントと全国との差は縮まる傾向にある。



- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.088、中位層は0.962、高位層は0.962となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
- ◆ 6年間の変化を見ると、低位層の割合は減少傾向、高位層の割合は増加の傾向にある。

領域・観点・問題形式別

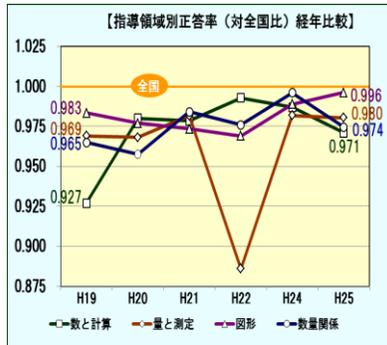
平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

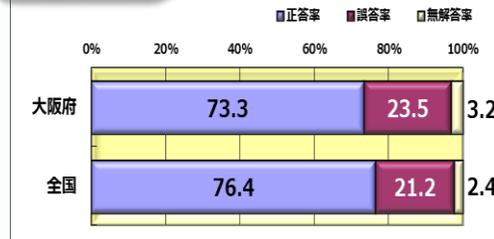
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「図形」「技能」「知識・理解」「選択式」の項目で高い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は73.3%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

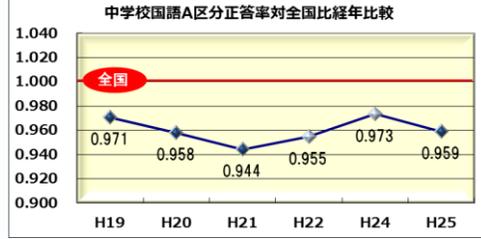


平均正答率は全国を3.1ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が76.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は73.3%であり、3.1ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

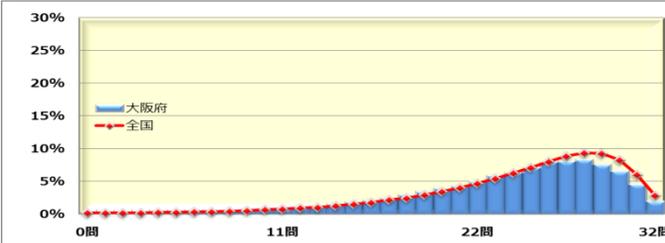
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とした場合の大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.959となり、前年度の0.973をやや下回ったが、前回の悉皆調査だった平成21年度の0.944よりはやや上回った。



具体的な課題

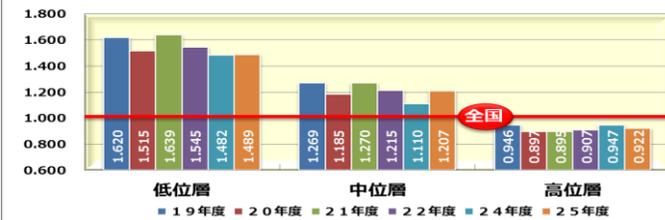
- 話し合いの方向を捉えて司会の役割を理解すること(司会が参加者へどのように声を掛けるのが適切かを複数選択する)
- 書いた文章を読み返し、目的に応じた表現に直すこと(書いた文章の見出しを変更した理由として適切なものを選択する)
- 文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くこと(出された意見を整理して決定した事柄について、理由を適切に書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆ 全国、大阪府とも28問を頂点にした右よりのなだらかな山型を描いている。
◆ 大阪府は、0～24問の間では全国よりも分布の割合が高く、26～32問の間では、全国よりも分布の割合が低い。



◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子と比較してみると、低位層は1.489、中位層は1.207、高位層は0.922となり、全国に比べ中位層から低位層に向かうにしたがって、その割合が高くなる。
◆ 6年間の変化を見ると、高位層の割合が低く、中・低位層の割合が高い傾向が続いている。

無解答率比較

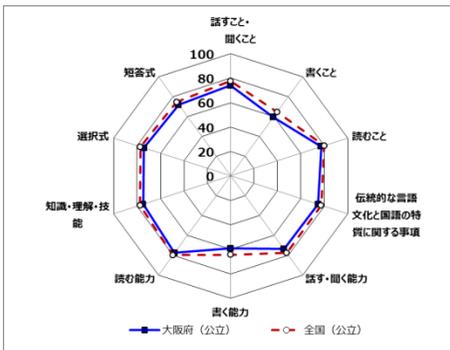


無解答率は全国の状況を0.8ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は1.1ポイント、平成20年度は1.4ポイント、平成21年度は1.5ポイント上回っており、全国との差が開く傾向にあった。しかし平成22年度以降、その差は1.1ポイント、1.0ポイント、今年度は0.8ポイント上回ったにとどまり、全国との差は年々縮まる傾向にある。

領域・観点・問題形式別

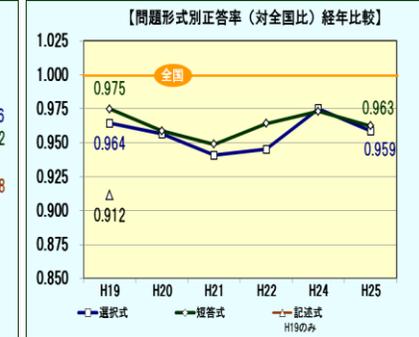
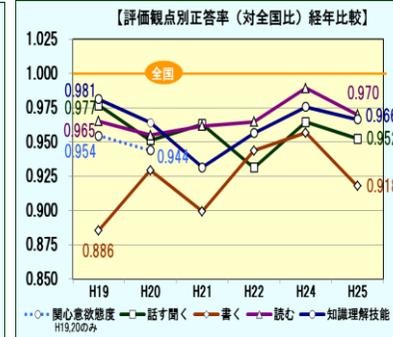
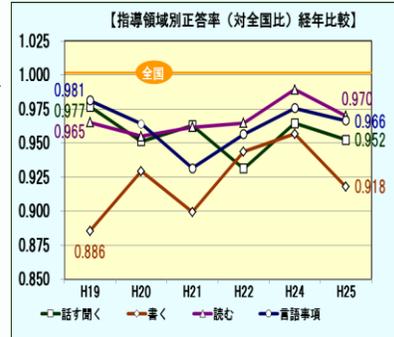
平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ同傾向を示している。

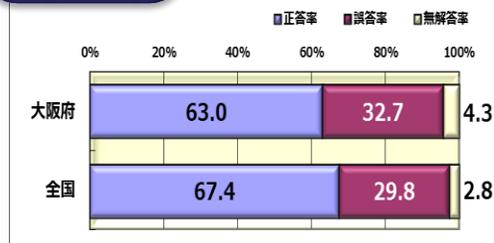
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府ともに「書くこと」「書く能力」で低い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は63.0%であり、文章の構成や表現の特徴について、自分の考えをもつことなどに課題がある

正答率比較



平均正答率は全国を4.4ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が67.4%であるのに対し、大阪府平均正答率は63.0%であり、4.4ポイント全国を下回った。

対全国比はゆるやかな増加傾向にある

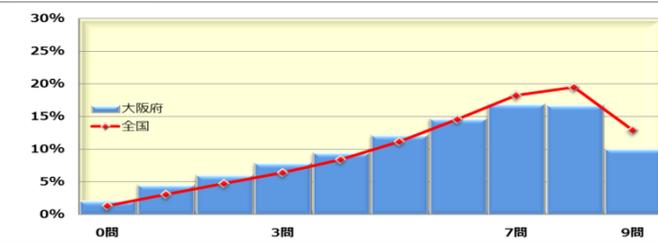
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は抽出調査であるため、単純に経年比較することは難しいが、この6年間の推移をみると平成19年度から値は一貫して増加している。



具体的な課題

- 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること(文章から分かったことを基にして、さらに調べたいことと調べる方法を具体的に書く)
- 文章の内容について根拠を明確にして自分の考えを書くこと(文章を読んで感じたことや考えたことを、条件にしたがって具体的に書く)
- 複数の資料を活用して、自分の考えを具体的に書くこと(間違えやすい漢字を学習する際の注意点やコツを、漢字の特徴を取り上げて説明する)

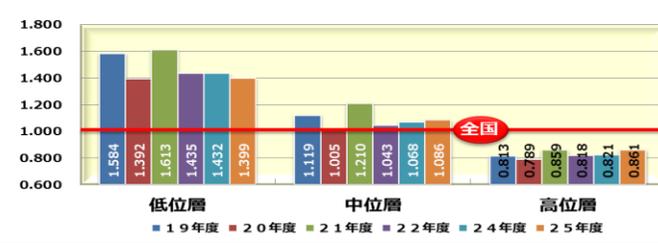
正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

◆ 全国は8問を頂点にし、大阪府は7問を頂点にしたやや右よりの山型を描いている。
◆ 大阪府は0～6問の間では、全国よりも分布の割合が高く、7～9問の間では、全国よりも分布の割合が低い。

◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.399、中位層は1.086、高位層は0.861となり、全国に比べ低位層の割合が高い。
◆ 6年間の変化を見ると、連続して低位層の割合が高く、高位層の割合が低い傾向が続いている。



無解答率比較

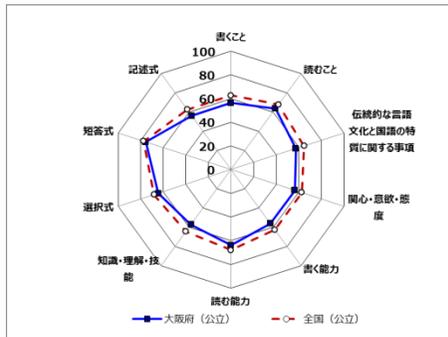


無解答率は全国の状況を1.5ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は3.3ポイント、平成20年度は4.2ポイント全国を上回っていたのに対し、昨年度は2.5ポイント、今年度は1.5ポイントとなり、その差はやや小さくなった。また、平成20年度からの5年間の推移を見ると、年々差が縮まる傾向がみられる。

領域・観点・問題形式別

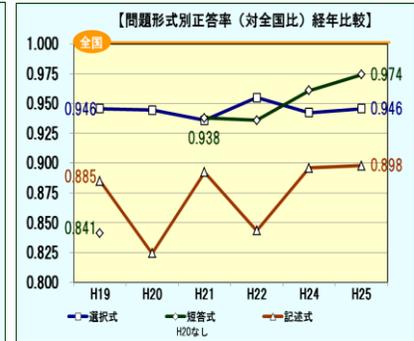
平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と同傾向を示している。

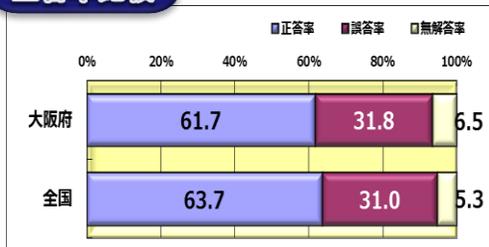
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも、「書くこと」と「記述式」の項目で低い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は61.7%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある

正答率比較

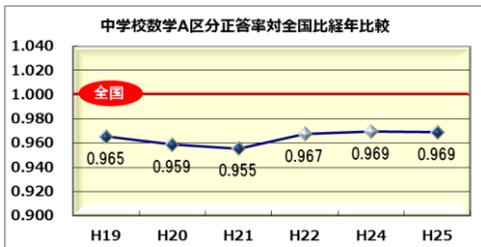


平均正答率は全国を2.0ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が63.7%であるのに対し、大阪府平均正答率は61.7%であり、2.0ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

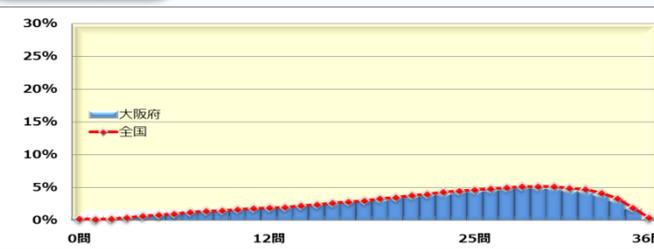
◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨象して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。大阪府平均正答率の割合は6年間大きな変化はみられない。



具体的な課題

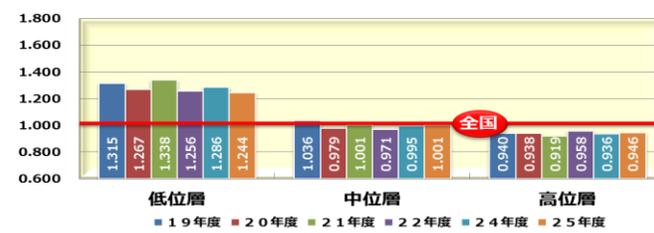
- 身に付けておかなければ後の学習に影響を及ぼす内容を習得すること (a mの重さがb gの針金の1mの重さを、a, bを用いた式で表す)
- 関数の意味を理解すること (yがxの関数である事象を選ぶ)
- 資料の傾向を読み取ること (与えられたヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求める)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国は29問を頂点とし、大阪府は28問を頂点とするわずかに右上がりの平坦な山型を描いている。
- ◆ 大阪府は、18問以下では全国よりも分布の割合が高く、21~36問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.244、中位層は1.001、高位層は0.946となり、全国に比べ低位層に向かうにしたがって割合が高くなっている。
- ◆ 6年間の変化を見ると、低位層の割合が高い傾向が続いている。



無解答率比較

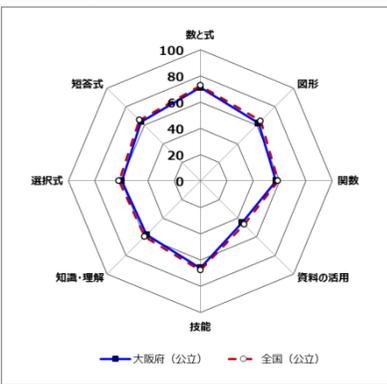


無解答率は全国の状況を1.2ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は1.9ポイント、平成20年度は2.1ポイントあったものが、昨年度0.9ポイント、今年度は1.2ポイントとなり、この2年間は、6年間の中で低い傾向にある。

領域・観点・問題形式別

平成25年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国の状況と同傾向を示している。

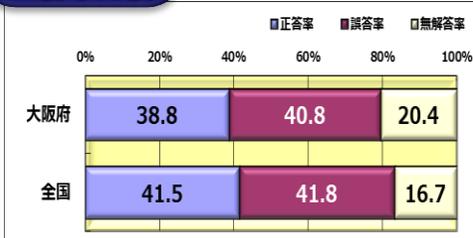
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「資料の活用」の項目でやや低い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は38.8%であり、数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりすることに課題がある。

正答率比較



平均正答率は全国を2.7ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が41.5%であるのに対し、大阪府平均正答率は38.8%であり、2.7ポイント全国を下回った。

対全国比には大きな変化は見られない

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を捨棄して比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府平均正答率との割合で比較した。平成25年度調査は悉皆調査であるため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.935となり、前回の0.931をやや上回ったものの、全国との差は依然として大きい。

無解答率比較

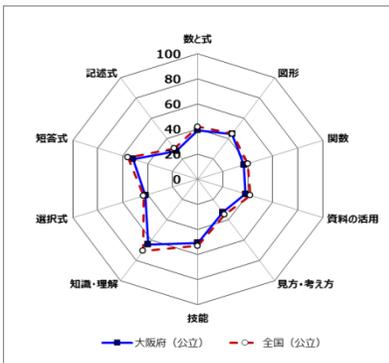


無解答率は全国の状況を3.7ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成19年度は5.1ポイント、平成20年度は4.0ポイント、平成21年度は3.3ポイントと差が縮まる傾向にあったが、平成22年度は5.5ポイント上回っており、全国との差が再び広がった。今年度は昨年度よりも0.7ポイント広がり、全国との差は依然として大きい。

領域・観点・問題形式別

平成25年度 レーダーチャート



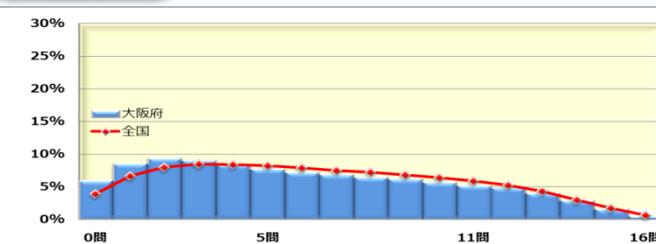
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国との状況と同傾向を示している。
◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「知識・理解」と「短答式」以外の項目で低い値を示している。

具体的な課題

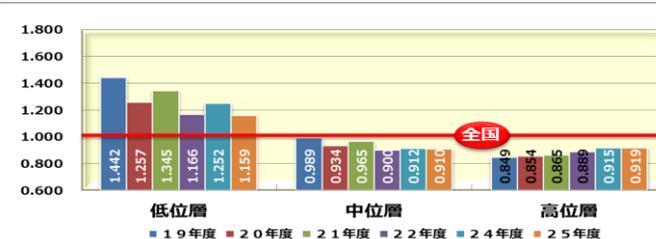
- 事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること (基石全部の個数を、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができる理由を説明する)
- 言葉で表現された事柄の数学的な意味を的確に捉え、他の事象との関係を考えること (与えられた表やグラフを用いて、水温が80°Cになるまでにかかる時間を求める方法を説明する)
- 事柄の特徴を数学的に説明すること (まとめ直したヒストグラムの特徴を基に、学級の生徒が美しいと思う長方形について新たにわかることを説明する)

正答数分布

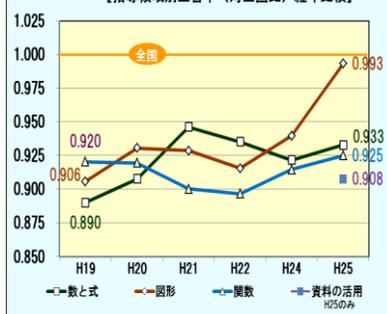


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆ 全国は3問を、大阪府は2問を頂点にした平坦な山型を描いている。
- ◆ 大阪府は0~3問の間では、全国よりも分布の割合が高く、4~16問の間では、全国よりも分布の割合が低い。
- ◆ 正答数分布を正答数により1/3ずつ低位層、中位層、高位層の3層に分け、分布の割合を全国を1とした割合で大阪府の様子を比較してみると、低位層は1.159、中位層は0.910、高位層は0.919となり、全国に比べ低位層の割合が高く、高位層の割合が低い。
- ◆ 6年間の変化を見ると、高位層の割合が年々増加している。また、昨年度に比べ低位層の割合が減少した。



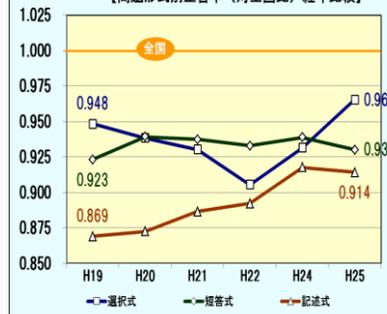
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】



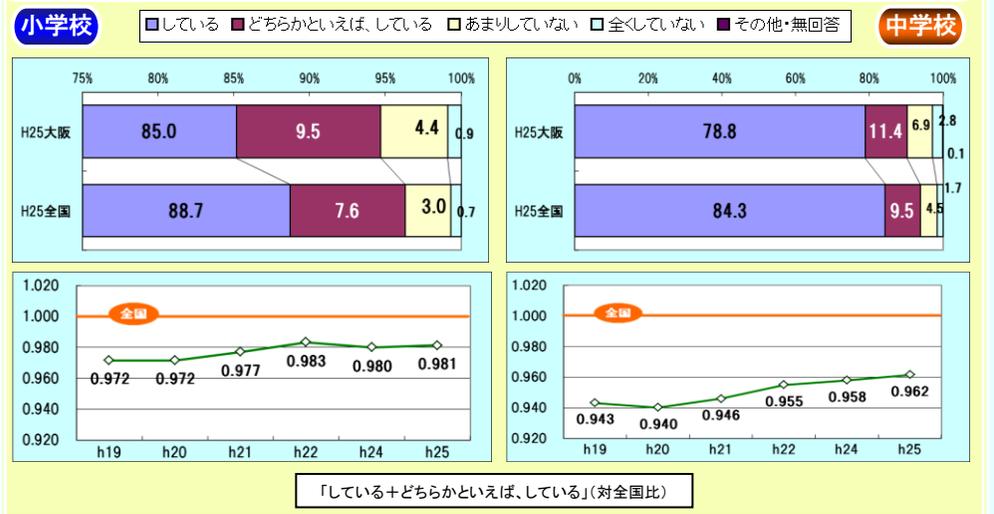
◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

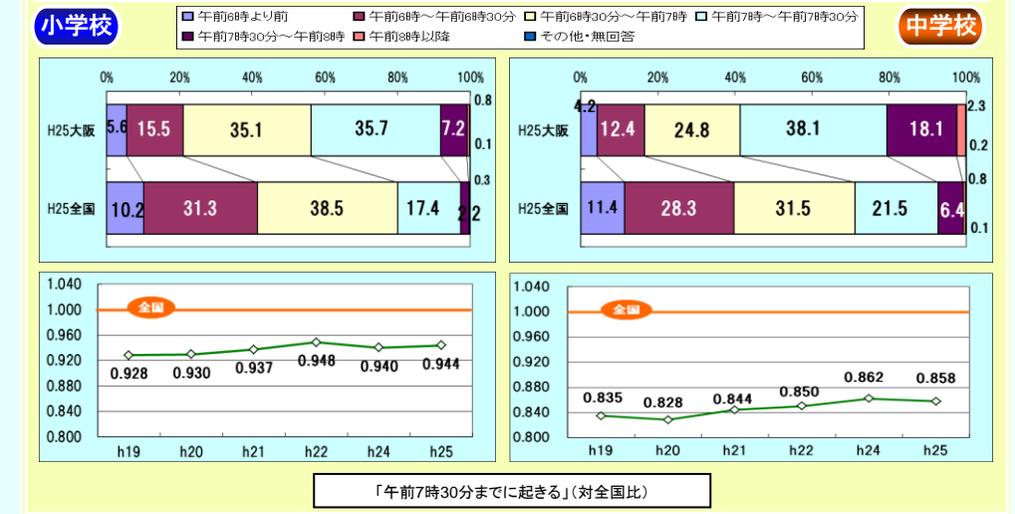
・小・中学校ともに、毎日朝食を食べている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る
 ・中学校においては、対全国比は増加傾向にある



2 起床時刻

Q: 普段(月～金曜日)、何時ごろに起きますか?

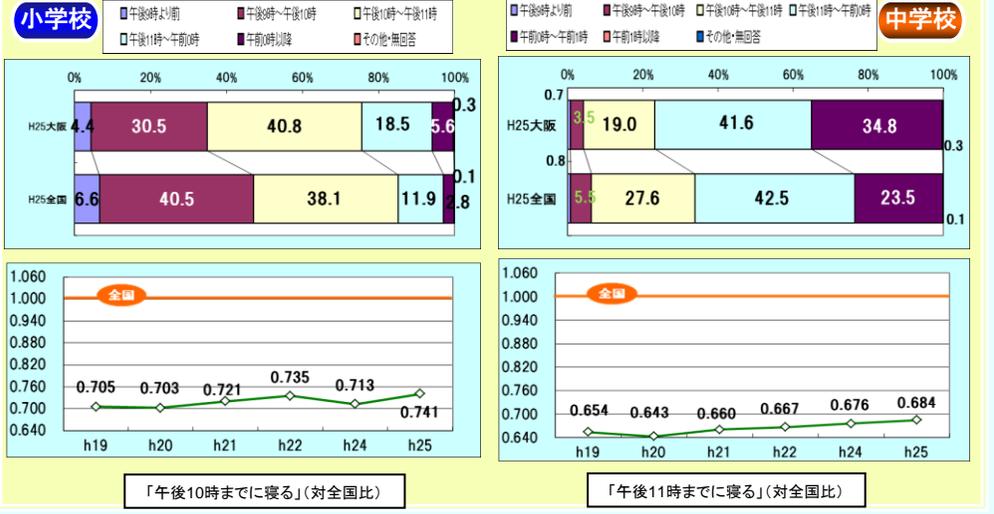
・小・中学校ともに、起床時刻は全国の状況に比べて遅い



3 就寝時刻

Q: 普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか?

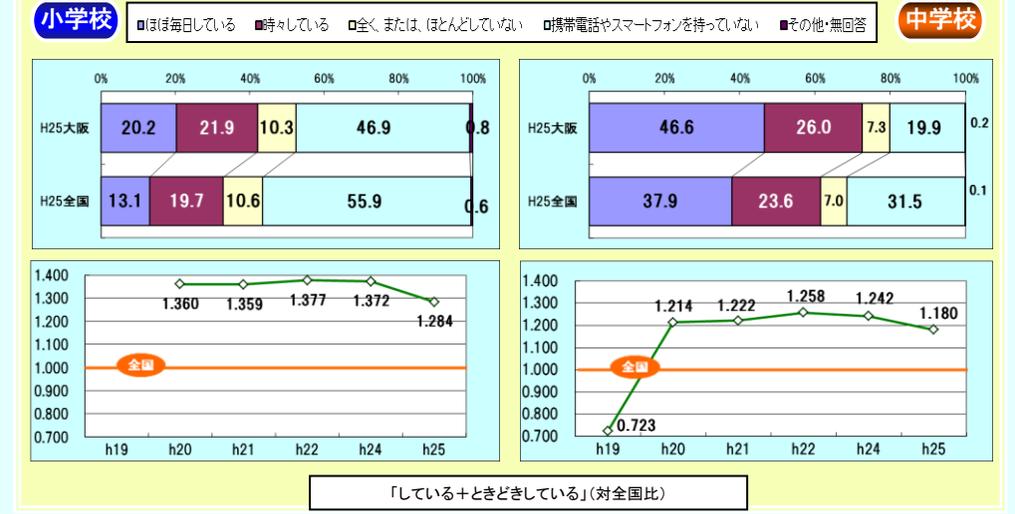
・小・中学校ともに、就寝時刻は全国の状況に比べて遅い



4 携帯電話やスマートフォンの使用

Q: 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか?

・携帯電話やスマートフォンで通話、メールをする児童・生徒の割合は、全国の状況を大きく上回る
 ・小・中学校ともに、携帯電話の保有率が全国よりも高い

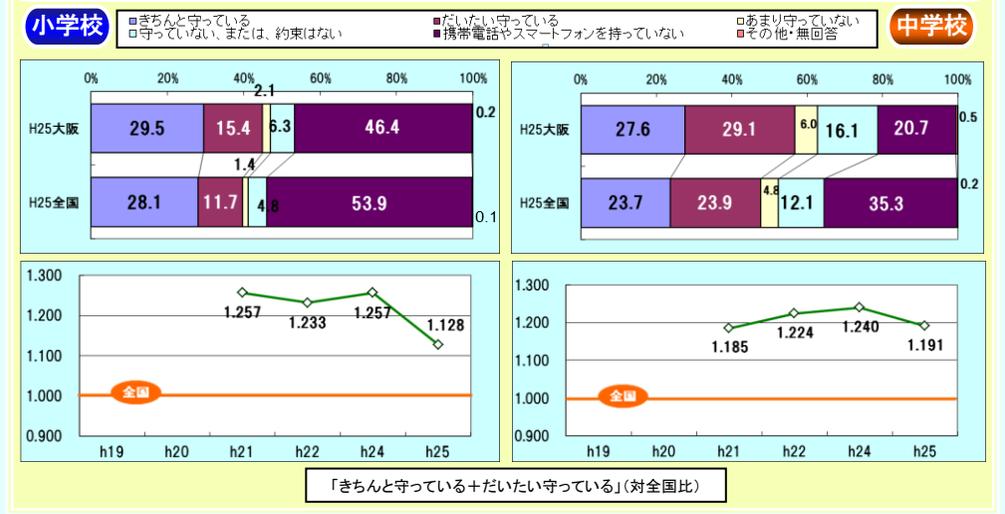


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 携帯電話やスマートフォンの約束

Q: 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか?

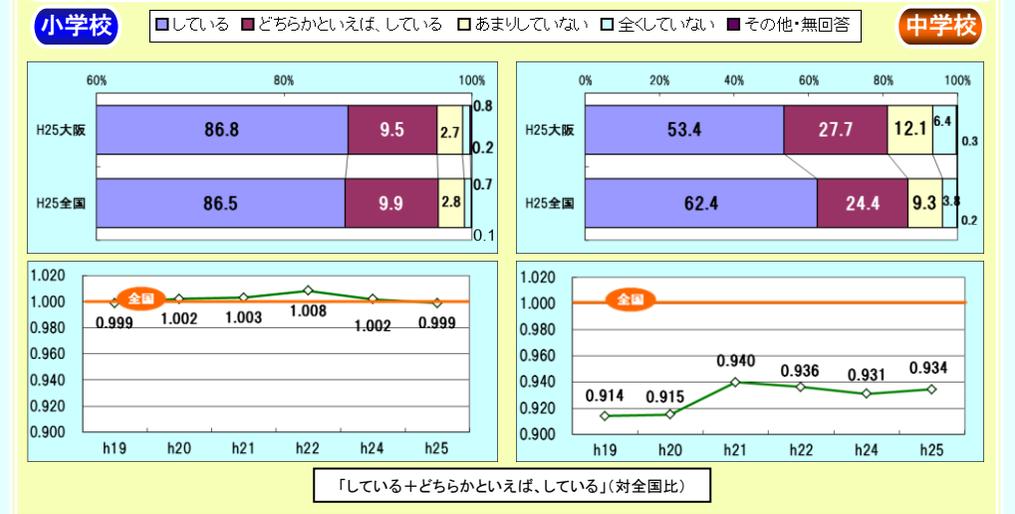
・携帯電話やスマートフォンの使い方についての家の人との約束を守っている児童・生徒の割合は、全国の状況を依然上回る



6 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

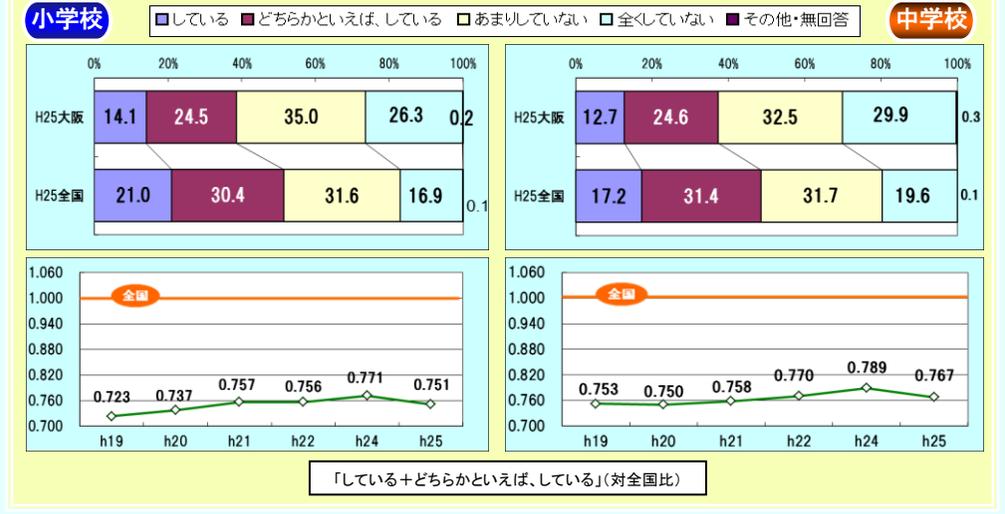
・学校の宿題をきちんとする割合は、中学校において全国の状況を下回っている



7 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

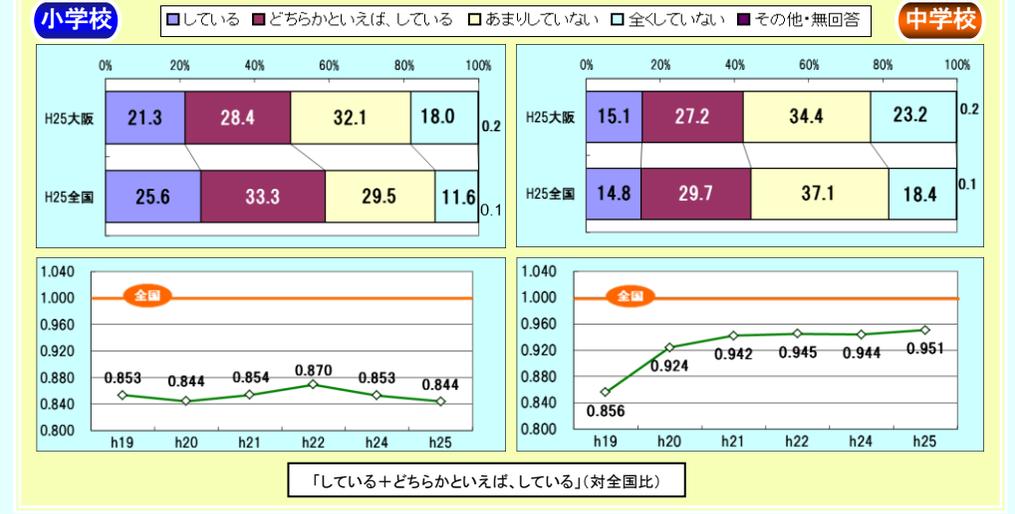
・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、小・中学校ともに全国の状況を下回っている



8 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

・自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る

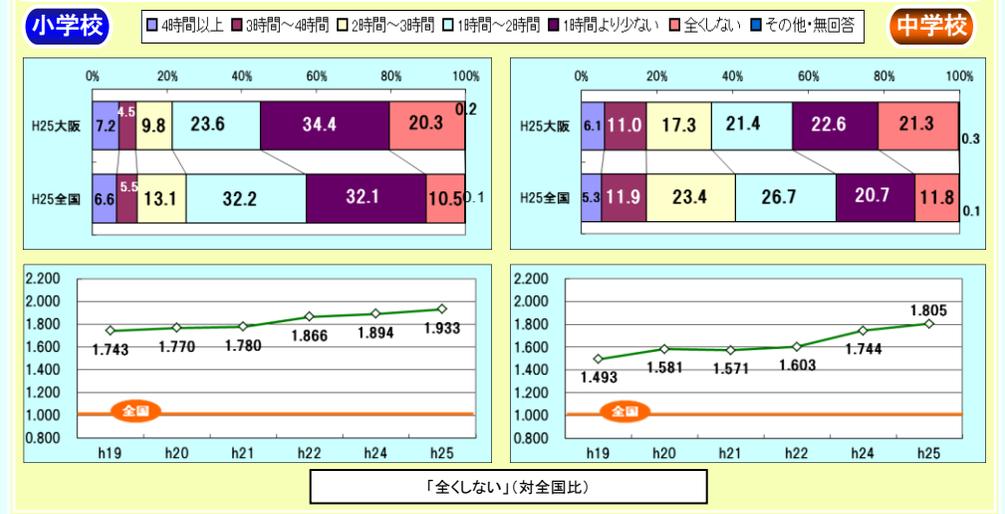


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか?

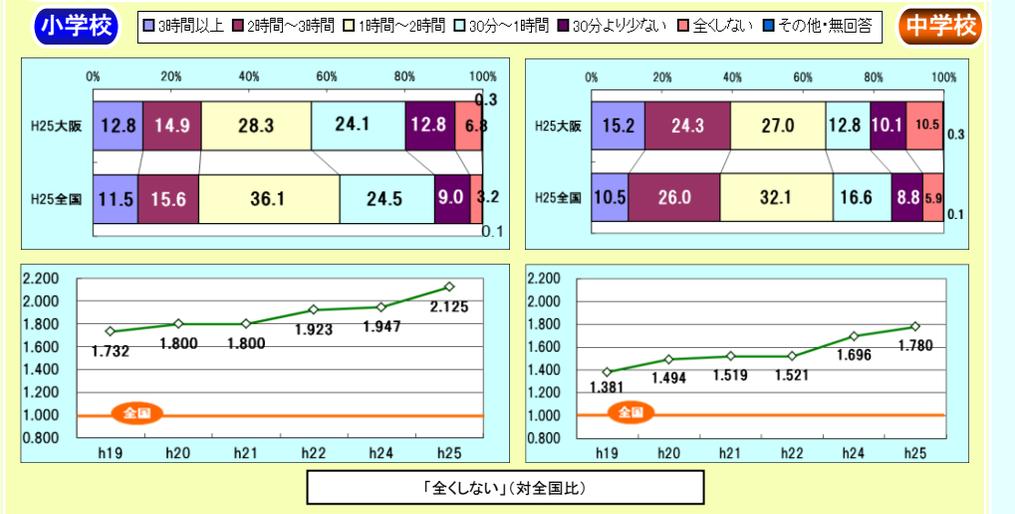
・休日に家庭学習をしない児童・生徒の割合は、全国の上回る
 ・小・中学校ともに、対全国比は増加傾向にある



10 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

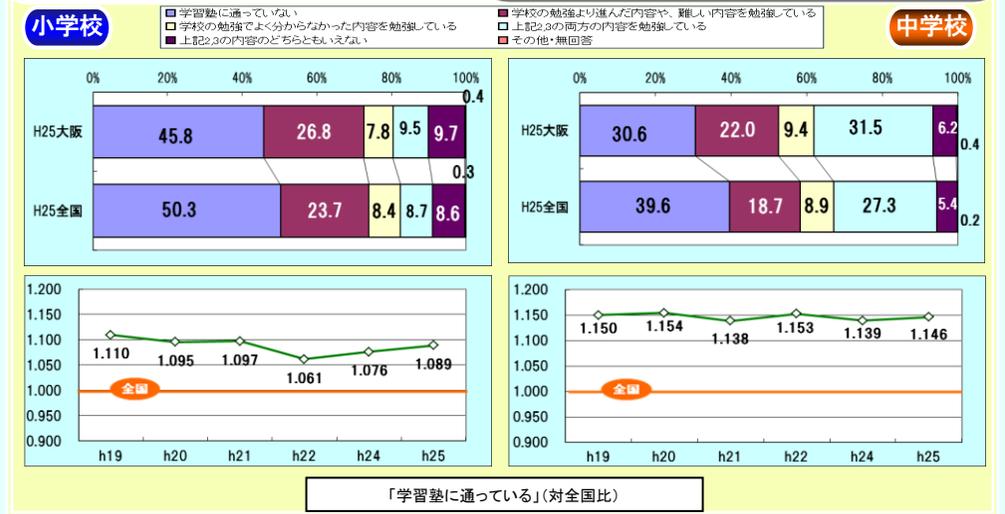
・普段、家庭学習に2時間以上取り組んでいる児童・生徒の割合と、全く取り組まない児童・生徒の割合がともに全国の上回る
 ・全く取り組まない児童・生徒の全国比は増加傾向にある。



11 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

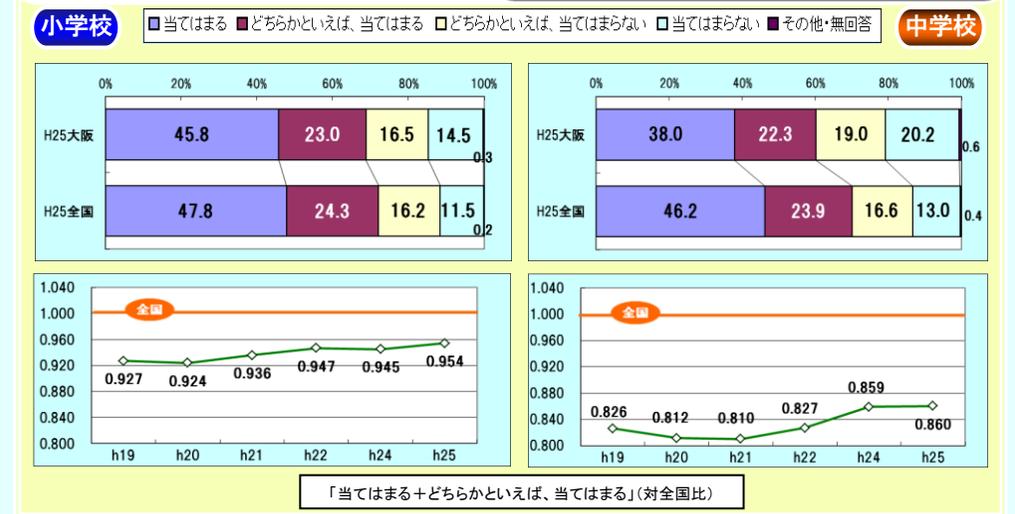
・小・中学校ともに、通塾率は全国の上回る



12 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

・読書の好きな児童・生徒の割合は、依然、全国の下回っているが、小・中学校ともに、増加傾向にある

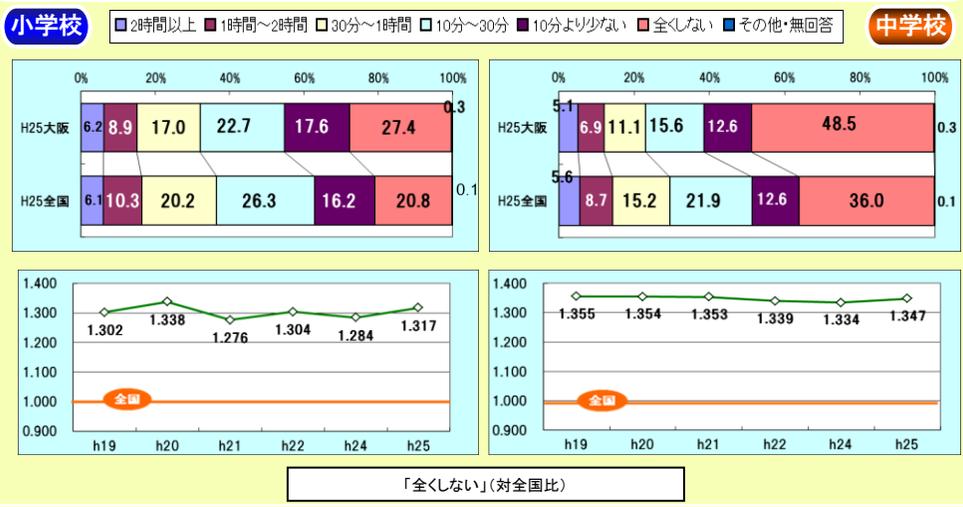


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

13 読書の時間

Q: 家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか?

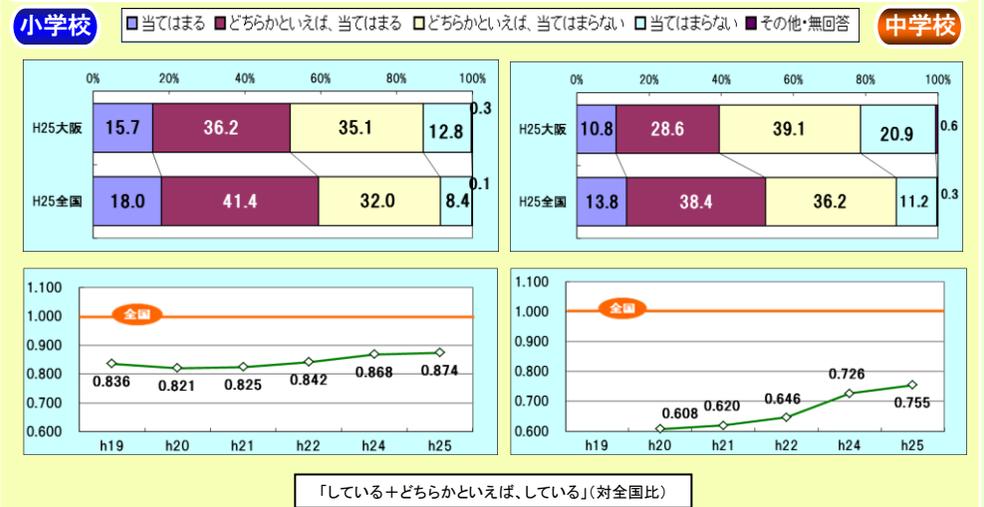
・普段、読書を全くしない児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回る
 ・読書習慣の身に付いていない児童・生徒の割合が高い



14 国語の授業について

Q: 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか?

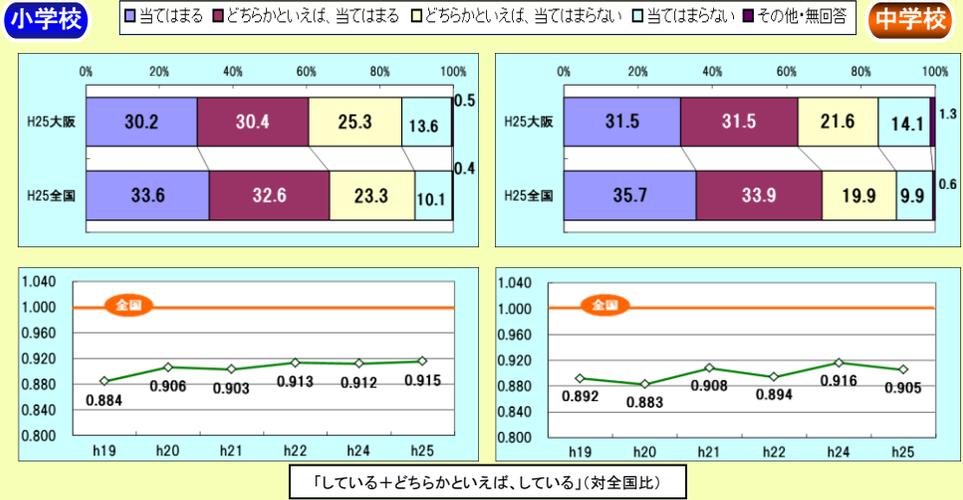
・国語の授業で、自分の考えを話したり、書いたりしている
 と回答した割合は、小・中学校ともに全国を下回る
 ・小・中学校ともに、対全国比は増加傾向にある



15 算数・数学の授業について

Q: 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか? (小学校)

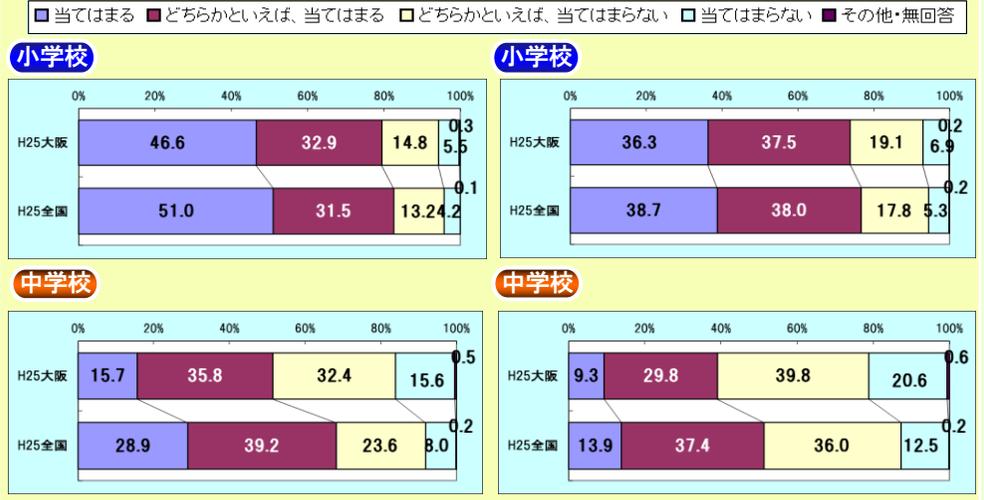
・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意義付けている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回る
 Q: 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか? (中学校)



目標の提示と振り返る活動

16 普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか?

・小・中学校ともに、授業の中で「目標が示されている」や「振り返る活動が行われている」と、とらえている児童生徒の割合は全国の状況を下回っている
 17 普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか?

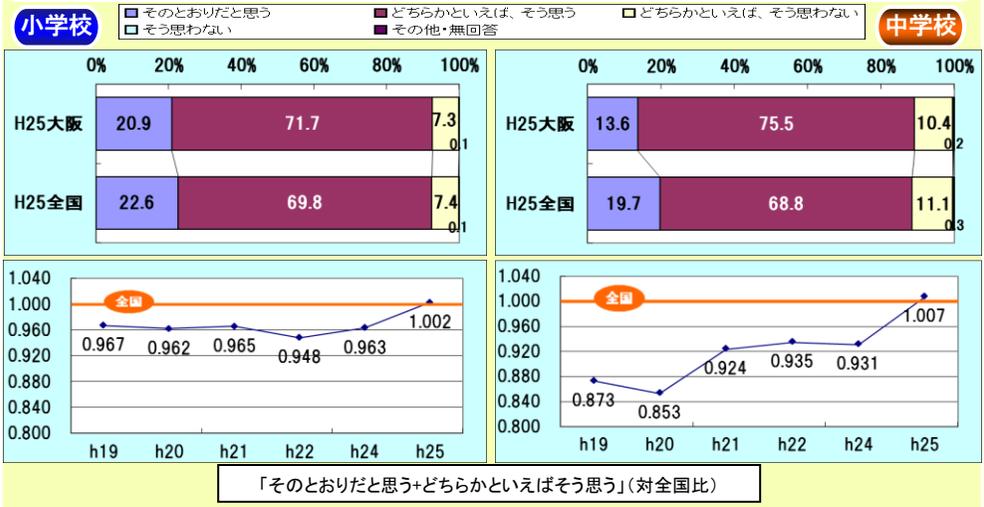


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

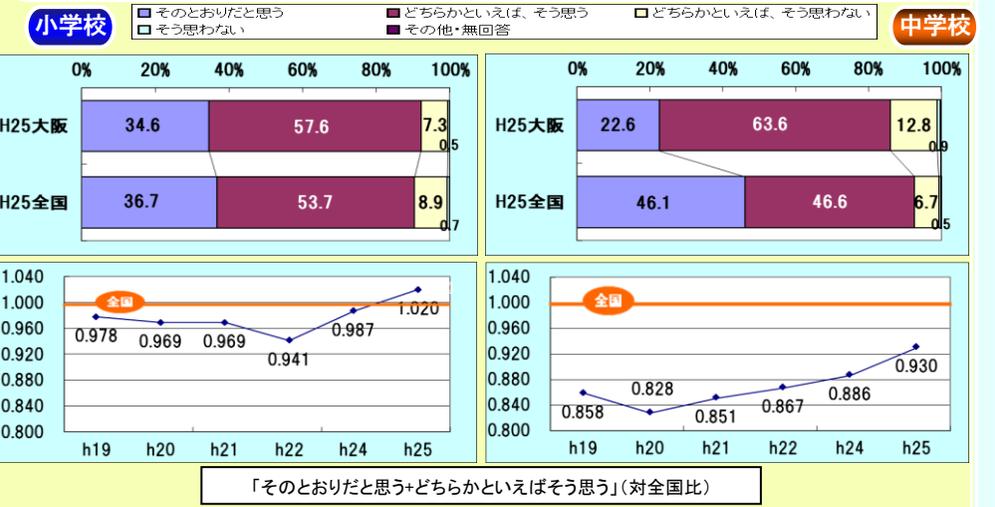
・「熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は小・中学校ともに増加し、今年度初めて全国を上回った



2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

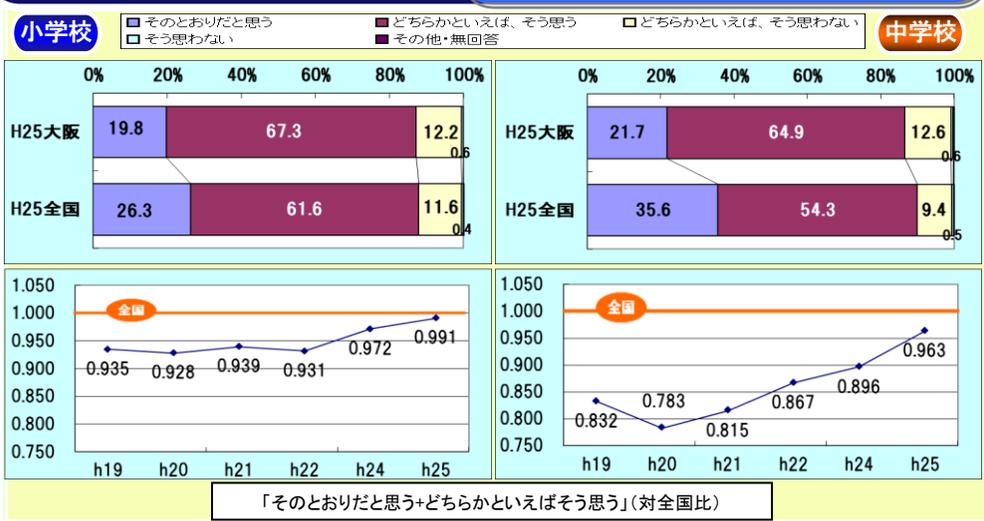
・「授業中私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っている
 ・中学校においては、平成20年度以降、対全国比は増加傾向にある



3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

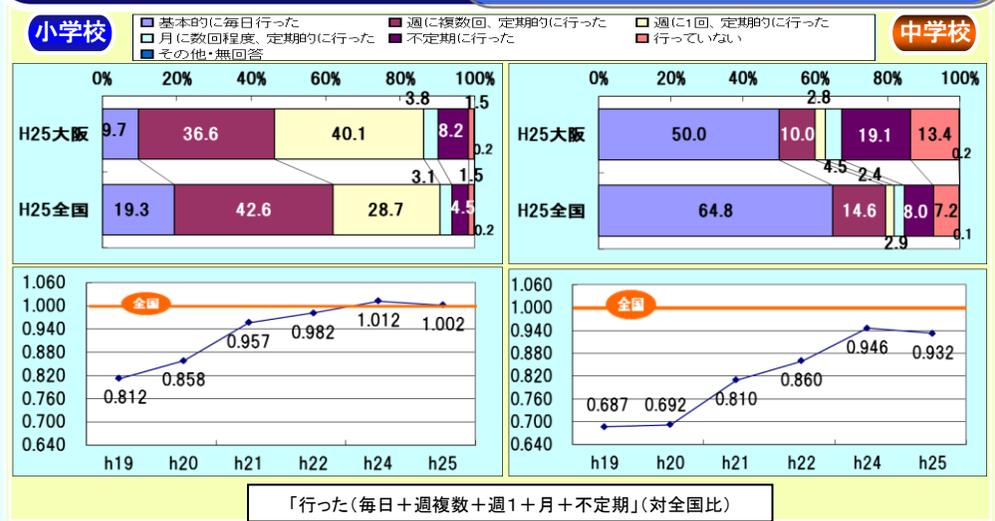
・「礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに、増加傾向にあり、全国の状況に近づいてきている



4 朝の読書

Q: 一斉読書の時間を設けていますか?

・一斉読書に取り組んでいる学校の割合は、小・中学校とも増加傾向にあり、小学校においては、昨年度に引き続き全国の状況を上回っている

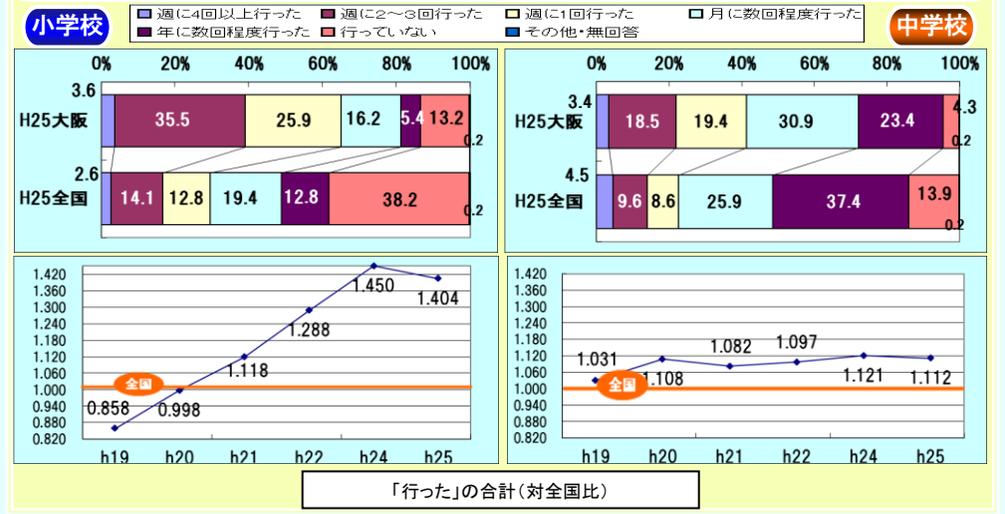


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
 ・特に小学校においては、大きく上回っている

Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?

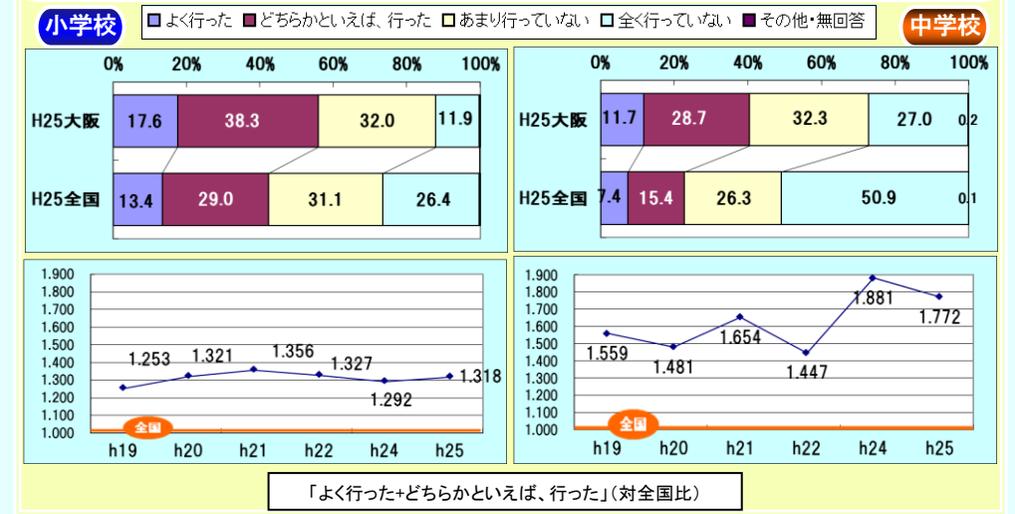


「行った」の合計(対全国比)

6 授業サポート

・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
 ・小・中学校ともに継続して取組が進められている

Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?

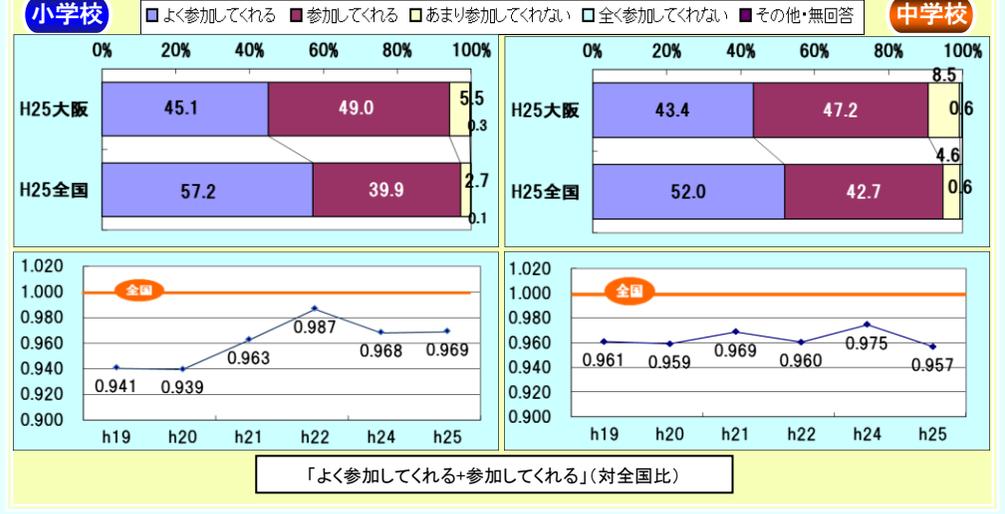


「よく行った+どちらかといえば、行った」(対全国比)

7 PTAや地域の人の参加

・PTAや地域の人の学校が行う教育活動への参加状況は全国の状況を下回っている
 ・特に「よく参加してくれる」の割合が全国に比べ低い

Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?

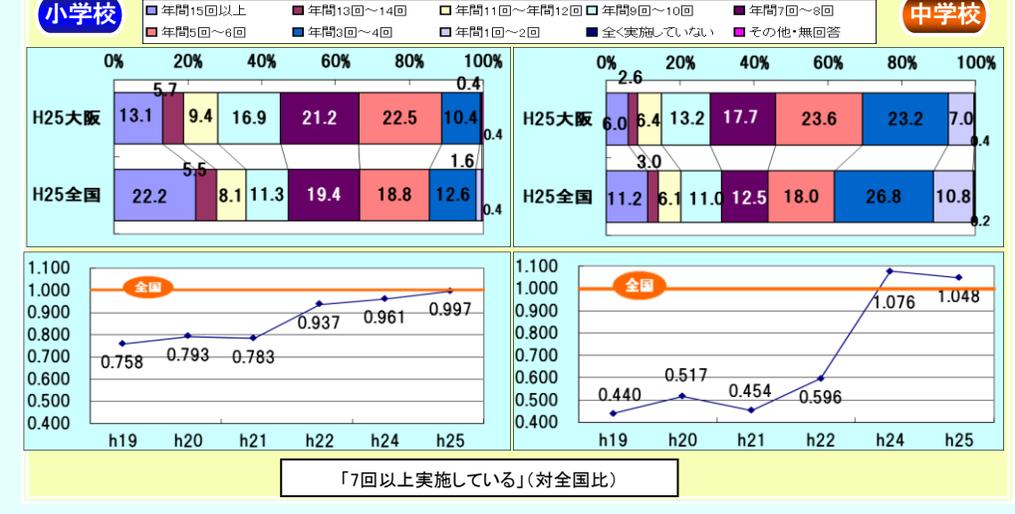


「よく参加してくれる+参加してくれる」(対全国比)

8 校内研修

・中学校においては授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合が全国の状況を上回っている
 ・小学校の対全国比は増加傾向にある

Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?



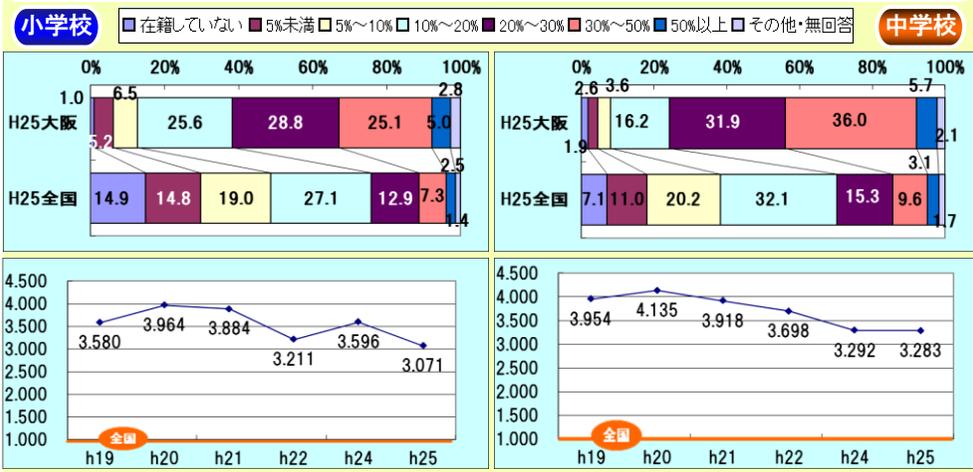
「7回以上実施している」(対全国比)

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 就学援助

Q: 就学援助を受けている児童・生徒の割合は?

・小・中学校ともに、就学援助を受けている児童・生徒の在籍率の高い学校の割合が、全国の状況を大きく上回っている



「就学援助を受けている児童が在籍している割合が30%以上」(対全国比)